

目的 カーペットを敷くことによって、空中浮遊菌数の減少がみられること、また、カーペットの物性が空中浮遊菌数に影響を及ぼすことなどについて報告した。

本報告では、カーペットを防菌防黴剤で処理し、空中浮遊菌数とカーペット内部の菌数を測定、また同時に粉じん質量濃度も測定し、防菌防黴剤で処理することによって、カーペット内部の菌数がどのように変動するを知るため、未処理の場合のカーペットと比較検討した。

方法 空中浮遊菌数は、落下法（KOLCH法）を、粉じん質量濃度については、ピエゾバランス粉じん計を用いて測定した。カーペット内部の菌数については、スワブ法を用いた。測定場所は、大阪市大生活科学部南棟三階のほぼ中央の廊下に、カーペットを敷き、カーペットの中間でそれぞれ測定を行なった。測定時期は昭和56年11月～1月である。カーペットは、ナイロン100%のもので、ループパイルとカットパイルのものである。

結果 空中浮遊菌数については、防菌防黴処理を行なった試料は、未処理のものにくらべ菌数は減少した。

カーペット内部の菌数については、未処理のものは、歩行回数が増加するにつれて、増大する傾向を示し、防菌防黴処理をした場合は、歩行回数が増加するにもかかわらず、菌数は減少する傾向を示した。

以上の結果から、防菌剤でカーペットを処理することにより、処理してリカーペットと比較して、その効果が認められた。